

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	岩手県奥州市江刺区稲瀬字水先629		
自己評価作成日	平成25年11月21日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0391500105-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●普段と変わらない体調で毎日を過ごしていただくため、特に健康管理に気をつけています。飲み忘れ、飲み間違いのない正しい薬の管理、さらには利用者の定期受診時に、日常の様子、測定値、変化等を主治医に報告し、普段から医療との連携を図っています。利用者から腹痛の訴えや風邪ひき等の体調不良はほとんどなく、皆元気で過ごされています。
 ●職員は利用者と共に制作の季節感のある貼り絵や行事内容が充実できるものになるよう創意工夫に努めています。
 ●開かれた施設を目指し、ホームページ、ブログ、会報等様々な媒体で施設内の様子、契約内容、料金、空き状況、行事の様子、出来事、職員紹介等の情報を公開しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小規模多機能事業所と併設されており、日常的な利用者間交流を図りながら利用者個々の健康管理を重点に支援されている。特に力を注いでいるのは「通院管理」「食事管理」「服薬管理」「室内温管理」で看護師が積極的に関わり、利用者の安心安全に配慮した支援に努めている。また、ホーム活動においては、季節毎の風物観照やホーム菜園での夏野菜作りを楽しんだり、涼み会(夏祭り)は子供達も含め盛大に行なったり、地域の産直交流等利用者の思いや生甲斐に出来るだけ近づけるよう職員が一体となり取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方を中心とした利用者と家族に安心と生きがいを提供するためには情報共有と介護技術の向上が重要ととらえ、朝夕の会議で意見、提案を出し合い実践につなげている。	開設当初作り上げた理念「安心と生きがいの提供」に向け朝夕のミーティングや全体会議で意見を提案しそこの情報共有し検討して実践している。	理念は、ホームの目指すサービスのあり方、ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全体で話し合いさらに具体的なケアについて意見の統一を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会から広報誌等をいただいたり、新年会等の交流会に呼び掛けしていただき参加をしている。事業所からは地区の広報誌や産直を通して介護相談会や夏祭りへの参加を呼び掛け、年ごとに参加者は増えている。	月刊地域紙「てるさわ」に介護相談会開催やホームの情報を掲載する等、地域との繋がりを大切に情報を公開したり、ホーム行事等も産直にポスター掲示をお願いする等、夏祭り交流や地域新年会での交流等、普段の散歩等を含め徐々に周知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解、事業所の特色を認識していただくため、運営推進会議を活用するとともに今後は地区の婦人会等を活用して認知症や介護保険制度、介護相談、事業所自体を理解していただく計画である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	普段の生活状況や活動状況を写真で報告したり、試食等をしていただき意見をいただいている。また消防署様、警察様からは防災・事故についての助言をいただき、サービス向上に活かしている。	隔月に開催し、利用状況、事故報告等、活動状況を写真等で報告するとともに、その都度テーマを設けており、利用者と同じ献立を食してもらい意見を伺いながら利用者の食管理や体調等支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営上のことで、問い合わせ、相談をしてその都度ご指導をいただいている。また相談員を定期的に受け入れ、助言を頂くことで協力関係を築いている。	普段は利用者の認定更新時や運営の相談等行なっているほか、グループホームブロック会議に参加し、他事業所との情報共有を図ったり困難事例にはアドバイスを得ながら円滑な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び玄関の施錠は行っていない。今後も身体拘束をしないケアに取り組むとともに学ぶ機会を確保していく。	職員の見守りの方法を徹底し、また一人ひとりその日の気分や状態をきめこまかくキャッチすることで、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。今後は広く事例を出し合いながら、研修機会を持ち更なる向上を目指したいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今までも虐待は皆無であり、今後も防止に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修を活かし、成年後見制度についてや日常生活自立支援について学ぶ機会を持つように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退所の条件、利用者の権利、事業所の内容、改定時には例をあげ、なるべく分かりやすく説明し、理解・納得していただける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や外部評価のアンケート調査から意見、要望を抽出し、運営に反映させている。	利用者アンケートや面会・訪問時等の機会を捉え要望や意見を聴いている。利用者・家族が不安を抱いていた夜勤職員の体制も今年度改善されサービス提供に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の会議とともに職員全体会議において、意見や提案を聞き、必要なことと優先順位を決め、反映させている。	朝夕の申し送り時・隔月に開かれる全体職員会議等に職員から提案や要望が出され、トイレの手すりのつけかえや利用者の入浴を夜できない分足湯で対応したいなどの提案があり検討・実施につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、特に介護職員処遇改善金を効果的に使った給与水準の上昇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人外部の研修を受ける機会を提供するとともに外部講師を招聘し内部研修の場も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区単位の連絡協議会に出席してネットワークづくりや勉強会に参加し、自施設のサービス向上に反映する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族が見学・相談に来所された都度、疑問・不安・要望等を聴き取り、回答できないものに対しては後日回答し、安心感をもっていただき、信頼していただける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話においての相談でも困っている事や疑問・質問等に出来るだけ答える様にしている。実際に来所して会うこと、目で確認していただくことが不安の解消につながるという認識で見学を勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅でのサービスを受けている中で、または退院後直ちに入居となるので本人・家族との面談を重視するとともに他事業所・病院からの情報を参照し、当初のサービスを決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、同じ場所で過ごしている者同士として共存できる環境作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状並びに今までの本人と家族の関係の経過を考慮しながら、共に本人を支えていく関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に生活歴把握に努め、家族や知人の面会時には居室で過ごしたり、一緒に出かけてゆっくりする時間を設け、また通院時の対応は原則家族にお願いし、馴染みの人との繋がりを大切にしている。	生活アセスメントから本人の情報把握し、寄り添いや声がけを通じて馴染みへのヒントを得るべく努めており、馴染みのお店等出掛けしている。新たに近くの出張理髪・パーマ屋さんとの繋がりができつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の行動を把握し、出来るだけ気の合う同士が交流する様に配慮し、時によっては全員が和める場を提供する工夫をしながら、円滑に過ごせる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の様子確認や介護保険内外の社会資源の相談に応じたり、家族に引き続き運営推進会議の構成員になっていただく等築いてきた関係を大切にするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動を経過表と業務日誌に記録し、希望、意向の把握するとともに日常的に接する中で本人の希望を抽出するように努めている。	入浴時や髪を乾かしながらやまたホールなどで声がけ寄り添いを通じて本人の思いを押し量りケアへ反映するよう努めている。別のホームにいる奥様に手紙を出したい等又習字道具一式を持ってきたいなどの思いは叶うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにより入居前の情報を把握できるよう努めるとともに、コミュニケーションの中から情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況観察で、個々の様子や変化等の申し送りをを行うことにより、情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では毎朝夕の会議と全体会議で、家族とは来所時及び連絡時に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が主となり、全職員が関りながら毎月のモニタリングを行っている。日頃より利用者の状態を観察し必要時には見直しを図り本人・家族とも相談しながら連携しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成して、日々の様子や変化等を記録し、職員間で情報の把握と共有を行い、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は利用者が笑顔になれるよう、日々創意工夫、試行錯誤している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	稲瀬地区の調査及び運営推進会議での情報収集から地域資源を把握、身近なところでは理美容、保育所、産直、運営推進会議構成員様に支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が本人の様子を記録、報告書を作成。かかりつけ医に報告している。様子に変化が見られた場合は連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医からのプラン提出要望にも応えている。	かかりつけ医の受診時には、看護師が作成した支援経過記録を付き添う家族に持参させたり、家族遠方の場合には職員が付き添う等臨機応変に対応し、受診結果等も家族と共有しながら支援している。かかりつけ医より介護計画の提出希望がある場合には協力し医療連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化が見られる場合、適切な連絡、報告により、適切な対応が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者等の職員が来院し、病院への情報提供、または病院から退院予定等の情報をいただくなど良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用前に家族には医療的処置が必要になった場合の当事業所でできること、できないことを説明し、当事業所で対応できないケースが生じた場合には他の社会資源の活用や他の事業所情報を提供するとともに連携を図っている。	現在重度化や看取りについては、入居時に医療処置を要する段階でホームとして対応の限界である事を本人・家族に説明している。今後、内外の研修を深めながら全職員で質の向上を目指し、段階的に検討しながら明確な方針を立て取り組みたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的かつ全ての職員とまではいかないが、救命講習を受講、次の講習まで間隔が開かない内に受講できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を含めた消防訓練を全職員を対象に行っている。消防署様に評価をいただき、地域の人たちにも立会をお願いするとともに、結果を文書で報告している。備蓄は水、食料、簡易トイレ、暖房用品等である。	避難訓練は消防署立会いのもと実施しており、訓練には運営推進会議委員も参加し地域住民の参加・協力も得ている。防災マニュアルを作成し火災報知器等の防火設備のメンテナンスも定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者に敬意を表し、個々の人格を尊重し、職員の何気ない言葉遣いや態度の一つひとつで不穏になる可能性がある事、あったことを認識し、配慮しながら支援している。	慣れにより無意識に出る不適切な言葉遣い等、職員間で気付いた時に注意し合い、利用者の自尊心を傷つけたり自立心を妨げないよう利用者個々の性格や状況を見極めながら心配りある支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己希望を伝えることができる声かけ(Whatか Yesまたは No)、接し方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースを大切に、希望にそって支援することを大切にしているが、共同生活でははじめやルール的重要性や一定の決まりごととも必要であると考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段とは違った気に入った服装での外出支援やひな祭り等の特別な行事で化粧できる場を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を確認しながら準備や片付けをお願いしている。刻みや柔らかか食、おかゆ等利用者に適合した内容で対応している。代替えメニューも可能である。行事メニューや外食も取り入れ、楽しみを演出している。	主食と汁は自前で作り、副食調理は外部委託しているが、刻みや柔らかか食も対応し、利用者と一緒に手作りの食事やデザートなど提供している。また配膳、下膳は利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し、一人ひとりの基準の数値を把握できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の有する能力に合わせて、声掛けや洗面所への誘導を行っている。全介助の場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を活かしておむつを使用している方でもトイレ誘導を行っている。またはナースコールを使っていたり、トイレでの排泄を介助している。ポータブルは身体状況による使用となる。	個別記録を活用し利用者個々にこまめな排泄の見守りに努め、職員で連携しながら支援している。排泄の自立は生活への自立に繋がるとの考えから、極力トイレへの誘導、排泄に繋げている。自立している方が多く声掛けや見守りで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、記録を把握して水分の摂取量や運動等で便秘予防に努める様になっているが、改善の様子がない場合には下剤での調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設の小規模多機能ホームの大きな浴場での入浴も選択肢としている。何らかの理由で入浴ができなかった利用者には異なる曜日や時間帯で入浴できるようにしている。	普段は個浴での入浴だが、複数介助で気分転換に多機能の大きな浴場に入ることもでき、機械浴も設置されている。夜間の入浴対応が出来ない分、足湯で対応したいなどの提案が職員よりあり、検討したいとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや希望、その時の状況に応じた休息の提案を行い、くつろいで頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個別にどのような目的の薬を服用しているのかについてやまたその副作用についての理解を深め、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書や歌、テレビドラマやスポーツの観戦、たこ焼き作りや体操、踊り、清掃、洗濯物の整理、食器後片付け等能力に応じて出来る事への支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や初詣等の季節を感じて頂ける外出やドライブ等の計画を立て行っている。またその日が外出日和であれば周辺の公園散策や周辺の散歩を支援している。	展勝地での花見や近くの神社への初詣、北上のふれ合い広場、江刺の緑化まつり、金ヶ崎の花木センターなど、気分転換をかねてドライブに出掛けている。また日常的には周辺の散策、畑づくりなども一緒に行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて、お金の所持、使用の支援を家族と話し合いながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが希望通りに家族に電話をしたり、取次ぎをして家族や外部との交流関係が円滑に継続出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が安心して長く居られるように特にホール周辺には、季節を感じられる装飾や利用者作成の貼り絵等の作品、写真等を掲示している。	廊下・ホールは床暖房を採用していて、利用者が集う居間兼食堂は吹抜け窓から陽が射し明るく、備えの大型テレビ画面を其々思い思いの場所で鑑賞することができる等、気持ちのいい設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで歓談やゲームをしたり、1人でテレビを観たり、新聞雑誌を読む等、自分の時間を持てる様にテーブルの配置等に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談して、写真や趣味の道具等の馴染みのものや好みの物を置く様にして、本人にとって落ち着いて過ごせる場所となるように配慮している。	居室はベッド、マットレス、布団、毛布、タンスが備え付けで暖房はパネルヒーターで暖かく、写真や作品を飾ったり、家具調のポータブルトイレを持ち込むなど個性のある居室も見受けられ、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要十分な手すりの設置、理解しやすい様に貼紙をする等、安全に配慮しながら自立支援に努めている。		